

Title	東アジア漢学者の会
Author(s)	青山, 大介
Citation	中国研究集刊. 2015, 61, p. 23-28
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/58682
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

## (研究会通信)

# 東アジア漢学者の会

(Han Learning Scholar's Society of East Asia)

## 青山大 介

# 概要と沿革

である。 る。二〇一五年七月現在、会員は以下の八名(生年順 文献の部」と「日本漢学の部」の二つの分科会からな 呼ばれる世代が中心となって設立した会であり、「出土 している日本人漢学研究者のうち、いわゆる「若手」と 本会は、台湾各地の大学に専任の大学教員として勤務

金原泰介[台湾]雲林科技大学漢学応用研究所助理 / 明末清初思想 ( 経世思想、 考証学、科

青山大介[台湾]南栄科技大学応用日語系助理教授 明治期漢学

> 想史(出土文献・安井息軒 、先秦思想史(聖人概念・呂氏春秋)、経学思

佐野大介[台湾]明道大学応用日語学系助理教授 中国思想史・日本思想史(孝概念)

前川正名[台湾]高雄餐旅大学応用日語系助理教授 / 先秦 両漢儒家 (諫争、忠)、日本漢文学

本左内、西村天囚)、道教廟調査

黒田秀教 [台湾] 明道大学応用日語学系助理教授。 史学思想史(近世、古代)、日本漢学史

大野裕司[日本]北海道大学大学院文学研究科専門 アジア文化交流史(術数・易学) 研究員/古代思想史 (術数・日書・ 周易)、東

工藤卓司[台湾] 漢代思想 致理科技大学応用日語: (漢代諸子学・礼学)、日本近代漢 系助理教授

(三礼研究

吉田絵里 [台湾] 台湾大学哲学系修士課程 /道家思

公開)上で共有し、 目処に、 終わり 合担当者の勤務校で開かれる。 は非固定で、 以来年四回のペースで継続的に会合を開いてきた。 にはメーリングリストを用い、 した第一 本会は二〇一二年六月二九日に台湾師範大学にて開催 (一月と七月) と長期休み明け その都度調整して決定している。 回研究発表会(以下 会員が持ち回りで手配しており、多くの場 刊行物は発行していない。 「会合」)を以て発足とし、 会合の記録はサイト 開催日も非固定で、 (三月と九月)を 会員間の連絡 学期 会場 非

互助 の研 は の研究を進めるものとし、 また合同研究を目的とした集まりではないため、 大きく次の三つである。 的組織として位置づけられ 究テーマなども設けていない。会員はあくまで自ら 本会はそれをサポートしあう ている。 本会の活動内容 共通

> 願 0)

研究発表会:論稿や新出土資料文献の釈読をみ なで検討する。

B 情報共有:学界動向及び研究動向、 台湾の大学

は、

会員の多くが台湾人主体の合同研究会に何かしら招

事情 の情 報を共有する。

Ĉ 学術交流 繋をすすめる :日台の漢学研究者・研究機関との連

る。 ば、 に関する情報の蓄積を図っている。(C) 筆され、 これらの活動は、それぞれ成果を挙げつつあ 十三回会合では大阪大学中国哲学研究室と「国 法人懐徳堂記念会研究員)、第五回では竹田健 けた、減給された等)と対処法、 は提出前の研究計画書を互いに検討しあった。 に相当) である。 外国人教員という立場の者にとって、 掲載されるに至った。本会で校訂された釈読をもとに執 (島根大学教育学部教授) 連繋としては、 一務の会員は、全員、 いしており、第二回会合では池田光子先生 そのほか、 すでに幾つかの論稿が(A)を経て日台の査読誌に 研討会」 申請に関する情報を共有し、 例えば、 査読誌に掲載された論文も出ている。 を合同 職場で遭遇したトラブル 科技部専題研究補助費 台湾遊学中の日本人研究者に講 開催 台湾の科研費を獲得した経験があ した。 にお越しいただい ただし台湾側との 台湾の 特に第七回会合で 極めて重要な活動 制度、 (日本の科研費 は、 (解雇通知を受 た。 (一般財団 日本側と なお台湾 В る。 日常生活 二先 際 誤演をお また第 例え は 牛

勤

課題である。 と言えるが、本会としての取り組みはまだなく、 聘されていることもあって、個人レベルでは進んでいる 目下の

## 設立趣旨

発表も認めている。 大まかな傾向を示すに留まり、 動が求められているという事情がある。分科会は本会の テーマになっており、会員にも日本漢学に関する研究活 状況があり、 ずる際に出土資料を用いないことなど有り得ないという ておく。 会「出土文献の部」と「日本漢学の部」について補足し 域外」の中国思想を研究する「国際漢学」が大きな 本会設立趣旨の抜粋を以下に挙げる。なお二つの分科 前者の背景には、台湾では中国古代思想史を論 後者の背後には、台湾では日本や韓国など これ以外のテーマによる

#### 1 本会趣旨

に啓発しあうための場を設けることを目的として設立さ が、出身・所属の枠を越えてゆるやかに結びつき、 本会は、)日本の課程博士制度下で学んだ漢学研究者 互.

## 2 出土文献の部

続と公開される昨今、これを個人で追いかける事も困 究論文を書くことは不可能に近い。 今や出土文献に言及することなく、 略 しかし出 古代中国思想の 土文献が 研

な状態になりつつある。

ら、先行する解読結果や研究成果を手分けして網羅的に 運びとあいなった。 追跡し、思想史的に跡付ける研究グループを立ち上げる そこで、有志が集まり、古代中国思想史研究の立 場 が

均して五~七篇、年間で二○~三○数篇の出土文献に目 を通していきたいと考えている。 本会の目標としては、年間四回の会合を開き、 毎回 平

### 3 日本漢学の部

にも世界はより近くなっているといえる。 る基礎は自国文化の確認にある。 の文化を確認することは国際化に繋がり、 化の第一歩として一定の意義のある行為であろう。 ア諸国の漢学者が、自国の漢学を研究することは、 略 現在、 国際化は益々進行し、 物理 的にも観念的 国際化を進め 我々東アジ

# 二、今後の展望

中請すべく、金原泰介主導で調整中である。 中請すべく、金原泰介主導で調整中である。 中請すべく、金原泰介主導で調整中である。

## 附·活動記録

青山:上博八『顔淵問於孔子』釈読、二〇一二年六月二九日 台湾師範大学

内礼』釈読、佐野:上博四『昭王毀室』釈読、大

工藤:上博四

水』の問題点野:阜陽漢簡『周易』釈読、吉田:郭店楚簡『太一生

②二〇一二年九月二二日

明道大学



第13回会合ならびに「国際「漢学」研討会」(2015年3月7日・致理科技大学)

上博四 餓」釈読 術数学 国竹簡 る元学の影響、 池田:中井履軒 大野: (弐)「繋年」(第一章~第八章) (択日術) の特色を探る、黒田:清華大学蔵戦 「昭王毀室」釈読その二、青山:上博八「子道 陳元靚 工藤:『史記』『淮南子』 『論語逢原』の「知者」 『上官拝命玉暦』につい 釈読、 中の 解釈に見られ 豫譲: て/宋代 佐野: 復讐

③二〇一三年一月十二日 高雄餐旅大学

戦国竹簡 (弐) 「繋年」 (第九章~第二十四章) 釈読及 前川:郭店楚簡「魯穆公問子思」、黒田 鬼神之明」釈読 国語 釈読その三、青山:上海博物館蔵戦国楚竹簡 成立に関する小考、佐野:上博四「昭王毀 :清華大学蔵 Â.

④二〇一 三年四月二七日 吉田:老子四十一章の再検討 致理科技大学 / 老子における「上」字

不称》釈読、 の用例、工藤:《上海博物館蔵戦国楚竹簡 黒田:清華大学蔵戦国竹簡 (参)「良臣 (九)、邦人

青山:《清華大学蔵戦国竹簡 大野:上海博物館蔵戦国楚竹簡 (参)・説命上》釈読 『卜書』

⑤二〇一三年七月二六日 竹田 て/清華簡 :出土竹簡の背面に見える劃線と竹節の 『繋年』と北京大学所蔵漢簡本『老 致理科技大学 痕跡とに

> 説命中》釈読、 子』とを中心に、青山:《清華大学蔵戦国竹簡 日本近世における中国古礼の活用と挫折 /新出土資料、 大野:術数の歴史的変遷に関する考察 敦煌遺書・伝世文献を用い /中井履 て、 黒田

⑥二〇一三年十月五日 佐野:孝行譚における「乳」、青山:《清華大学蔵戦国 南栄科技大学

服忌図』『深衣図解』を中心にして

⑦二〇一三年十二月十五日 竹簡(参)・説命下》 釈読 雲林科技大学

⑧二〇一四年一月十一日 ※「国科会専題研究補助費」対策 明道大学

釈読、 天」観念、佐野:日中における孝の異同/「親に先 青山:清華簡「説命(傅説之命)」に見える

⑨二〇一四年三月八日 致理科技大学 立つ不孝」「異姓養子」への態度から 黒田:上海博物館蔵戦国竹書(九)「史**蒥**問於夫子」 等駆逐艦蓬、 安堂初探/神になった船 摘要』研究序説 経注疏校勘記》的比較為中心、 金原:《左氏会箋》的校勘之特点与其定位/与 工藤:日本近一百年《三礼》研究概況序 大野:上海楚簡 /安井息軒の尚書関係資料、 第三十八号哨戒艇 「卜書」 青山 : 安井息軒 の構成とそのト 前川 樅型 十三

⑩二〇一四年七月五日 青山 清華簡 (三)「赤鵠集湯之屋」釈読 致理科技大学

黒田 基礎的研究』出版記念講演 野:孝と近親相姦、大野:『戦国秦漢出土術数文献の 日本近世における無鬼論の思想史的理解、佐

⑪二〇一四年九月二七日 高雄餐旅大学

要》初探/以目次与校勘為中心、佐野:誕生日におけ 区紅毛港新廟群について、青山:安井息軒 変遷/『服忌図』「擬服図」の成立過程、 節」を中心として、黒田:中井履軒における喪服説の 金原:八股文と明末経世思想/陳子竜「詩云雨公田 前川:鳳山 《書説適

⑫二〇一五年一月十七日 金原:試探明末幾社之思想与其影響/以陳子竜之八股 龍邦僑園会館 (北投)

る孝の系譜

⑬二〇一五年三月七日 文為中心、青山:清華簡『尹至』釈読 致理技術學院

※国際「漢学」研討会

⑭二〇一五年七月十一日 雲林科技大学 青山:清華簡(五)『湯処於湯丘』釈読 (及其他)、

田:儒者のやまとごころ/中華論より万世一系譜論 へ、前川:現代日本楚辞研究の動向

⑮二〇一五年九月二六日

無爲草堂(台中)

工藤 孝譚における割股、 . . 岡松甕谷とその『論語講義』、佐野:和漢の忠 青山:清華簡(五)「帝門」釈読

(其他一篇)、

【附記】南栄科技大学は二〇一三年に旧称 改称、致理科技大学は二〇一五年に旧称「致理技術学院」よ 「南栄技術学院」より